



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization (UNESCO)

両毛地区ユネスコ懇話会

2018年7月12日(木)、大泉町文化むら 第1研修室において「両毛地区ユネスコ懇話会」が行われました。この会は、両毛地区でユネスコ運動に取り組む7つのユネスコ協会の会員が年に一度集い、情報交換をし合い、親睦を図り合い、学び合おうということで開催されています。

今年の主管ユネスコ協会は、大泉ユネスコ協会です。参加団体は、足利ユネスコ協会、太田ユネスコ協会、佐野ユネスコ協会、桐生ユネスコ協会、館林ユネスコ協会、大泉ユネスコ協会、開倫ユネスコ協会の7団体です。

前半は「懇話会」、後半は「講演会」という日程で行われました。

前半では主管ユネスコである大泉ユネスコ協会 寺西弘之会長のあいさつにはじまり、各ユネスコ協会より1年間の活動内容の報告、また事業の改善・充実にむけた取り組み、役員の高齢化へり対応策などについての意見が出され、今後の活動の活性化を考えるうえでとてもよい機会となりました。

後半では、『大泉町における多文化共生の現状と施策』と題する記念講演が行われました。講師は二名で、大泉町多文化協働課の笠松弘美課長と多文化共生コミュニティセンターの服部真所長でした。笠松課長は、大泉町の概況や外国人の人口の推移、日本での生活の様子などについて詳細にご説明いただきました。また、服部真所長からは、大泉町の多文化共生事業に関する具体的内容、例えばポルトガル語の広報誌「GARAPA(ガラッパ)」について、移動領事館での情報発信についてなど、日頃行われているさまざまな取り組みに関する詳しいご報告がありました。


 主管：大泉ユネスコ協会
 寺西弘之会長


会場全体の様子


 大泉町多文化協働課 笠松弘美課長(右)
 多文化共生コミュニティセンター 服部真所長(左)

『ルワンダの教育を考える会』への支援について

2018年7月16日、『ルワンダの教育を考える会』永遠瑠(とわり)マリールイズ理事長にお会いし、ウムチョムイーザ学園への支援として、82円切手200枚を寄付させて頂きました。ルワンダでの民族間の悲劇を乗り越えてやってきたマリールイズさんは、日本に来て、「教育の力」は学ぶこと、生きることと実感し学校をつくるために活動しています。ですから、ウムチョムイーザ学園は、日本的な教育を多く実践しています。鍵盤ハーモニカ、コーラス、体育、健康診断、給食などです。私たち開倫ユネスコ協会もこれからも支援をしていきたいと思えます。



マリールイズ理事長(左)高尾事務局長(右) 『ルワンダの教育を考える会』写真パネル展

イベント会場にて

『書きそんじはがき』がありましたら、送ってください。

UNESCO (United Nations, Educational, Scientific and Cultural Organization)
国際連合教育科学文化機関



すべての人に教育を ユネスコ・世界寺子屋運動

全世界の問題を
一緒に考えてみよう

学校に行くことが
あたりまえじゃない
国がある。



世界には、内学校に行くことができない子どもたちが約6,100万人
文字の読み書きができない大人が約7億5,800万人います。
その全ての人が教育を受けられるように始められた運動、
それがユネスコ世界寺子屋運動です。

※日本の人口は約2,700万人

あなたにもできる
国際協力

書きそんじはがきを集めて送って下さい

★書きそんじはがき
住所を書き間違えてしまった、古くて使えないなどの理由でポストに投函されていない未使用の
官製はがきを、書きそんじはがきといえます。

送り先 開倫ユネスコ協会 〒326-8505 栃木県足利市堀込町145
TEL 0284-72-5915

